

東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名:2012 IARU Global Summer Program)

所属学部/研究科・学年(留学時): 工学系研究科 機械工学専攻

留学先大学・参加コース: オーストラリア国立大学, ANU2 International Environmental Policy

コース期間: 2012年 7月 3日 ~ 2012年 7月 20日

卒業・修了後の就職希望先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 **5.民間企業**
6.起業 7.その他()

1. 留学先大学の概要

オーストラリア国立大学.

オーストラリアの首都キャンベラに位置しており, 国際的な指標では南半球で最良と位置づけられている大学.
人文科学, 経済学などの7つの学群から成り立っており, 特に社会学・人文系の研究に非常に強みを持っている.

2. 留学の動機

夏の短期での参加が可能, 世界の有名大学で講義を受けられる, 奨学金が出るという魅力に惹かれ申し込みました.

3. 留学の準備

①プログラムへの参加手続き(申請にあたってのアドバイスなど)

TOEFL に関しては試験日, 試験結果が出る時期などを確認して, 締め切りに間に合うように資料をそろえて下さい.

②ビザの手続き(ビザの種類, 申請先, 手続きに要した時間, ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

留学ではあるが 23 日間と短期の滞在となるため, 留学ビザは取得せず観光ビザを取得をしました.

ビザの申請は出発前に, 成田空港のロビーで行いました

入国審査をする際にはそれで特に問題はありませんでした.

③保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

三井住友海上の旅行保険に加入した.24日間の保険で¥7.190 でした

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学時期に講義, レポート課題の提出, テストがあるクラスの担当の先生には事前に留学の旨を伝えると共に, レポート課題の留学先での受け取り方法, テストの補償方法を事前に尋ねました.

結果, レポート課題は先生からメールで送って頂くことに, テストに関してはその講義中の他の何点かのレポート課題を提出していたので受けなくても単位は頂ける事になりました.

⑤語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL89pt

英語の勉強は特にして行かなかった.

⑥日本から持参した方がよいもの, その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

シャワーは共用のものを用いることになるので, サンドルを持参した方がいいです.

また買い物の際にはクレジットカードがあると便利です(ただし VISA か MASTERCARD)

4. 留学生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)

最初の2週間は Bruce Hall という学部生向けの寮に泊まりました。各人に1部屋が与えられる形の寮でご飯も3食ついていました。(ご飯は美味しく、お米も食べられるので食事に困る事はないと思います)。

家賃はおよそ AU\$55/day (AU\$709/14days) 食費込み

次の4日はキャンベラから車で2時間くらいの海岸に面した Kioloa キャンパスというところの宿泊施設に泊まりました。

2LDK のコテージを三人でシェアする形でした。部屋はきれいで、周りにはカンガルーが多数生息していました(奈良公園の鹿のような形)。また空気が綺麗なせいか、夜には目を疑うほどのきれいな星空が輝いていました(おそらく日本では決して見る事は出来ない)。食事に関しては、朝は用意してあるパン、シリアル等を食べ、昼と夜に関しては近くのレストランのシェフが作りに来てくれました。これがまた美味しかった。

家賃は AU\$140/day (AU\$550/4days)

最後の4日は Liversidge Court Apartments という学内に用意されたホテルに泊まりました。設備は良かったですが家賃が高く、しかもご飯は自分で用意しなければならないなど不満な点が多々ありました。

そのため2日目の時点でチェックアウトし、残りの2日は BruceHall で出会った友人の部屋に居候させてもらいました。

家賃は AU\$154(AU\$616/4days)

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

オーストラリアの7月は冬。といってもそれほど寒いということはなく日本でいうところの11~12月頃の寒さです。少し我慢すればセーター一枚でも暮らせるくらいなのでそれほど心配する必要はないです。しかし夜は冷えるのでジャケットは一枚用意して行った方が良いでしょう。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

オーストラリア、キャンベラの治安はとても良いので心配することはないかと思います。医療品は学内で買う事が出来ます。

④留学に要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

宿泊料、授業料、フィールドトリップ料全て込み AU\$1,875,000

航空賃(Narita⇄Sydney) Qantas 航空: ¥108,640(航空運賃 51,000, 手数料・税金・チャージ 57,640)

バス代(Sydney→Canberra) MURRAYS:AU\$25

バス代(Canberra→Sydney) MURRAYS:AU\$

その他現地で用いた金額 計およそ ¥20,000

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

¥80,000 (Jasso 留学生支援制度奨学金)

US\$1,500 (IARU-Santander GSP Scholarship)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

現地での最初の週末は Brucehall で出会った2人の学生(一人は台湾出身, もう一人は中国出身)にキャンペラの中心地を案内してもらいました。

また週に一度, キャンパス内のジムで汗を流しました。利用料金は1回の利用で AU\$12 でした。

トレーニング室に関しては御殿下とほぼ同じ設備が揃っていました。しかしプールはなかった気がします。

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

International Environmental Policy.

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

3週間の講義で以下の4つの学習項目を行った。

1. Poster Exercise

自分の興味のある環境問題のテーマを選び、それに関する一枚のポスターを作成した

2. Tutorial Exercise

環境に関する一つのテーマに関して、二人一組のペアがファシリテーションをする形で授業を進めた

3. Negotiation

各自が仮想の国の代表者を務める形で、国連における交渉を真似た授業を行った。

4. Policy Brief

各自が発展途上国のある一国の社会団体の代表者となり、該当する国の環境問題を解決する上で有効な策を大臣に提案するという仮定で、英語 2000 字の Policy Brief をまとめた。

③学習・研究面でのアドバイス

本コースは毎日の宿題が多かったです、英語の資料を2~3本読み、用意された質問に答える。というものが毎日ありました。夜遊ぶ時間がないというわけではありませんが、遊んでばかりはいられないと思います。

④語学面での苦勞・アドバイス等

留学前は自身の英語に少し自信を持っていましたが、授業を受けて絶望するくらいに自分の英語力がないことに気付かされました。参加者は6人で2人がネイティブ(オーストラリア人, シンガポール人), 4人がノンネイティブ(中国人2名, イラン人, 日本人(私))でしたが、私以外のノンネイティブの人は英語の授業に苦勞なくついて行き、私だけがついていけないという状況でした。普段一対一で会話する時は相手が私に合わせてゆっくり話しているから理解できるのであって、普段のスピードで話されるとついていけないのだと言うことが骨身にしみてわかりました。将来国外で働きたいと考えているだけに、この点に関しては危機感を覚えました。今後は日本にいても、読み書きする資料は全て英語にする、毎日 BBC, CNN, TEDなどを聞き耳をならす。英語を用いるコミュニティに加わりネイティブの会話のスピードになれるなどの対策をしていく予定です。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

短期の研究生という身分でしたが、学生証をしっかりと配布してもらい、学内での無線 LAN も使えるように準備していただき不自由な生活を送る事が出来ました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

食事に関しては、学内の中心地に Union Court という商店が集まった広場があり、そこに多数のお店が入っています。(SUBWAY など)

PC 環境に関しては、BruceHall 内に PC 室があり、自分のアカウントで入れれば使えます、しかしそれ以外の場所では PC を用意している所はないので、自分の PC 持って行った方がいいです。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

今回の私のように短期の留学であっても、自身の現在の能力、日本では感じられない他国の人の価値観の相違を感じるには、外国で学ぶということは最良の経験だと思います。少しでも興味のある人は是非飛び出してみてください。

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。



写真1 : Bruce Hall 食堂



写真2 : Bruce Hall 外観



写真3 : Bruce Hall 宿泊部屋

2012 IARU Global Summer Program 学習成果に関するレポート

1 Through the experience of IARU GSP, my motivations for leaning and international understanding have changed as follows. I'd like to tell two points about this.

First, I feel I need to study more about the situation of other countries and the situation of Japan as well. As communicating with several countries' people, I found that I didn't know about their countries, in terms of their histories, politics and economics, enough to discuss about them. Also, I found that I didn't know much about Japanese situation so that I can explain it in English, and I felt that it was shameful as Japanese. So, in order to know about them and let foreign people know about my country, I will study more about them.

Next, I feel keenly that I need to make a habit to prepare more for any cases. In this course, since I couldn't understand what the teacher and the other participants were talking, I couldn't follow the lectures and discussions. At first, I thought it was only due to my inadequate skill of English. However, one day, I found that I didn't prepare enough to catch up the class. If I cannot understand what other participants is talking in the classes, I should prepare more in advance to predict what kind of things will be talked in the classes. I found that, if I cannot follow the class, I should prepare as possible as I can to follow it. Probably I will face the same situations again in future, but I cannot make an excuse. So, I decided to prepare as much as possible I can for any cases.

In addition, I recognize that I am one of the Asian people. When I was in Japan, I rarely felt that I was an Asian, but as I stayed in foreign country, I strongly felt that I am a member of the Asian people. Although I also communicate with westerners, those who I talked with a lot and I hanged around with were Asian people, such as Chinese, Taiwanese and so on. I found that we belong to the same group in this world. So far, I felt not so much friendship as rivalry to Asian people, but after this I would like to communicate with them and know more about them.

2. By attending the IARU GSP, I've come to feel that I want to go abroad again in the near future for the following two reasons.

At first, I assume that I have to get skills to discuss in English. Through this program, I recognize that I don't have enough ability to understand what other people are talking and to explain what I am thinking as well. Though I am expecting to work in other countries in the future, I felt strongly that I would not work internationally if I could not improve my English skill. In order to get enough English skill before I get to work, I assume that to study abroad is the best way, so I would like to go abroad

Additionally, I'd like to meet a lot kinds of people who have views of life those are different from Japanese ones. As staying in Australia, even if it was short time, I could meet lots varieties of people. Their senses of values were very different from Japanese people, and these could stimulate me a lot. I assume that these experiences give me a lot of points of view, and these let me grow up, and it is difficult to undergo them in Japan. Therefore, I hope to go abroad.

所属学部/研究科・学年(留学時): Architecture

留学先大学・参加コース:

コース期間: 2012年7月1日 ~ 2012年7月20日

卒業・修了後の就職希望先: ①研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 5.民間企業
6.起業 7.その他()

1. 留学先大学の概要

This course focused on the dynamic and rapidly expanding field of international environmental policy. International environmental policy has grown rapidly and dramatically over the last three decades, driven by concern over unprecedented and large-scale global environmental change, including climate change, biodiversity loss, deforestation, marine degradation, and expanding trade and consumption. International environmental policy now directly and indirectly affects the behaviour and decisions of governments, corporations, NGOs, local communities and individuals. This course will incorporate lectures, guest speakers, an environmental video festival, discussions, debates and tutorials.

2. 留学の動機

The importance of International policymaking and the way it mutually interacts and affects national policy regarding the environment was the main reason I did participate in the course.

Learning negotiation technics, International debates was a another important aspect of the course.

3. 留学の準備

①プログラムへの参加手続き(申請にあたってのアドバイスなど)

I did apply through the IARU department of Tokyo university and there was a very good support and orientation activities regarding the program.

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

While I needed the visa to travel to Australia, due to university support and my professor's recommendation to the embassy I got the visa without any difficulty.

③保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

I did apply for the SAMPO JAPAN travel insurance through Coop of the university for the period of my stay.

④留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

It was a course with several poster and assignments material. There was final project and presentation at the end.

⑤語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

There was a good deal of specialized English vocabulary to learn. But I think at least 70% Tofel grade is needed.

⑥日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

It is good to have your needed cloth with you since it is expensive there.

4. 留學生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Private rooms of the ANU dormitory. The hotels tend to be quite expensive.

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

The weather is always opposite the northern hemisphere. Canberra in particular was cold comparing to Sydney and Melbourne. Few days of rain. The University is close to city center and could be walked. Public transportation is not good and expensive. Sydney is better. Credit card is generally accepted.

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

No experience but having insurance is necessary since medication and healthcare is very expensive.

④留学に要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

Since the university during summer is not very crowded, it is OK if you stay the second half of the course out campus. The best deal of air tickets seems to be Australians Qantas airlines should be bought at least a month in advance.

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

The scholarship offered by JASSO was very helpful. Almost covered one third of whole travel and stay expenses. Having it rose a bit would be fine too. The other point is the 1 week before and after the course return. I think it would be better to allocate this 2 weeks in a more flexible way. For example I could not find a ticket a week before the course and I had to return soon after the course. I wish I could use 10 days stay after my course since Australia is very big to travel within.

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

There are many peaceful countryside areas which are very good places to have vacation and weeks off.

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

[ENVS3038/ENVS6038 - International Environmental Policy](#)

[Lecture 2: State of the World Page](#)

[Lecture 3: Global Equity Page](#)

[Lecture 4: The Anthropocene Page](#)

[Lecture 5: The Challenge of International Environmental Cooperation Page](#)

[Lecture 6 and 7: The Evolution of International Environmental Policy Page](#)

[Lecture 8: Institutional setting for IEP Page](#)

[Lecture 9: Treaty development process: Climate Change Page](#)

[Lecture 10: Decisions within a Treaty Page](#)

[Lecture 11: Which regime will save the rainforests? Page](#)

[Lecture 12: The Negotiation Process](#)

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

The most important goal of the course to understand environmental situation, propose a policy, and justify its implementation.

③学習・研究面でのアドバイス

. It would be good if you could take a look at previous environmental conventions especially the Kyoto protocol and have an idea what has been done so far. Prepare for discussions and tutoring other students.

④語学面での苦勞・アドバイス等

The course was very intensive and every night there are written homework and at least 10 pages to read. You better have speed reading skills and good listening skills as well.

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

The support was generally OK. No serious issues in my case to need help but generally supportive. We had their cell phone numbers and could call them easily.

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

The libraries were not good. Not many open study rooms. Even the class was closed before and after the class time. So it is a little hard to study indoors in campus.

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

The Japanese guide book of Australia was a good one. Going to the tourist centers in Sydney and Melbourne is very helpful.

②今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

This course is very intensive. Forget going around even on weekends and Canberra except a few museums does not offer much if you do not have a car! The course needs a good level of English fluency and proficiency and you need to teach and present. Be ready for that.

④その他東京大学のホームページ等に掲載可能な留学中の写真があれば添付してください。

2012 IARU Global Summer Program 学習成果に関するレポート

The course at Australian National University was focused on International policy making in which Australia today seems to be very active in it. The issue of environmental policy is indeed a very interdisciplinary domain and there are various fields from biology to political science and from forestry to urban planning are involved. For me, seeing these diverse domains of science and practice and the way and the way they did interact was very interesting. In the course, we had students from different fields and most of the discussions were pointed through different academic angles. Most important issues that I learned through the course were as of the following:

- A clear understanding that how global environmental issues are affected by local policies and vice versa.
- Discover the importance and the way each academic and scientific field could contribute to better understand underlying issues in policy making.
- Dialogical importance of negotiation while realizing the role of other political actions in the field of environmental policymaking.
- Understanding geo-political preferences of countries and alliances in pursuing certain environmental conventions and treaties.

The emphasis is on understanding the real-world dynamics of policy formation and debate. The course did cover the nature of International environmental policymaking (IEP); its development over recent decades; the actors and institutions which form and influence it; and the conflicts which shape it. We did examined key areas of debate within IEP, such as tensions between conservation and development; conflicts around knowledge, science, and uncertainty; and reliance on "command and control" vs market-based approaches. Cross-cutting issues like gender, the fight against poverty, the role of corporations and the media also encouraged me to consider these issue on the grass root. The debates and issues explored through analysis of topical case studies,

such as equity and climate change; biodiversity and livelihoods; biofuels and deforestation; and genetically modified organisms and international trade also attracted my attention as interwoven factors to be considered.

While such awareness was enhanced through guest lectures and intensive course materials, certain group work and student presentation were promoted and a good share of student works were achieved.

Another educational aspect of the course was negotiations skill and rules that were taught and later on practiced through simulation of an international gathering, which helped us understand the way real negotiations took place. In this manner, we were given certain real and hypothetical countries and circumstances to represent and discuss and work out national priority policies through intensive negotiation.

As an expert in urban planning and development, I was able to see how operational objectives could help me hammer out certain favored policies and promote their constitution while understanding challenges nationally and internationally.

This course together with the field trips and tours in nature and the importance of its preservation and conservation helped me realize that environmental sensitivity is far beyond the keep nature intact but a more sustainable usage. Unfortunately, economic drives and certain malign international policy gaps provide serious damages to the natural resources, which call for immediate action.

This course gave me a better perspective on evaluating with better measures, certain promoted policies by countries and the reason why some allegedly claimed as benign and helpful for environment in fact are destructive and undermining.

I am grateful to this GSP opportunity since it opened up a horizon to see underlying issues, processes, priorities, strategies in environmental policymaking.

As for the future I intend to pursue the same lineage of attention toward future international treaties and more closely follow up their implementation while study more on their assessment criteria. The course also gave me a chance to get in touch with some of websites and professors active in the field in Australia and my country to follow up updates and share research aspirations.

The other objective I think I could continue is to seek international institutions (under UN supervision), NGOs and other active organizations regarding sustainable development.

The youth program of UN, which promotes younger generation participation in environmental policy making seems to be another potential to pursue. Especially since the Copenhagen and Rio world summits, such a role among students could be considered integral and necessary.